

温室効果ガス排出量検証報告書

グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社が作成した「2023 年全社 GHG 排出量まとめ」(以下、「算定報告書」という。)に記載された 2023 年の温室効果ガス(GHG)排出量が、ISO14064-1:2018 並びに同社により作成された「全社 GHG 排出量算定規程」(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2023 年とは、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの期間をいう。

検証の目的は、「算定報告書」を客観的に評価し、同社の 2023 年の GHG 排出量に係る情報の記載の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3:2019」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、直接的な GHG 排出量(エネルギー起源 CO₂、HFCs)、購入したエネルギー起源の間接的な GHG 排出量、調達及び出荷の輸送、従業員の出張、通勤による間接的な GHG 排出量、購入した製品等並びに事業から出る廃棄物由来の GHG 排出量(以下、「カテゴリ 1、2、3、4」という。)、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は総排出量における 5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は、グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社(本社・新潟工場、徳山工場、関川工場、小国結晶センター、東京事務所、九州事務所)並びに関連会社(エム・イー・エム・シー株式会社)の国内 7 事業所とした。

検証では現地検証に先立って、「算定ルール」等の確認のために統括検証を実施した。その後、サンプリングにより、グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社本社・新潟工場及び小国結晶センターの現地検証を行った。現地検証では、各拠点における算定対象範囲並びに活動、排出源及びモニタリングポイントの確認、算定シナリオとアロケーションの確認、算定・集計体制の確認並びに排出量データについて、根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定はグローバルウェーハズ・ジャパン株式会社が行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした「算定報告書」の 2023 年の GHG 排出量カテゴリ 1、2、3、4 において、ISO14064-1:2018 並びに「算定ルール」に準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

GHG 排出量 (t-CO ₂ e)	カテゴリ 1	カテゴリ 2	カテゴリ 3	カテゴリ 4
	8,382	138,033	3,208	55,923

4. 留意事項

「算定報告書」の作成責任はグローバルウェーハズ・ジャパン株式会社にあり、GHG 排出量検証の結論に関する責任は当機構にある。グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地

一般財団法人日本品質保証機構

理 事 浅 田 純 男

